

今後の整備方針について

1. 今後の必要整備数について

平成24年度は早期の待機児童解消(平成25年度当初)に向け、1,400人分の整備を進めているところであるが、平成24年度当初の保育需要が見込みを大幅に上回ったことから、現整備数では待機児童の解消には至らない状況である。以上のことから、今後の保育所整備については、平成26年度当初の待機児童解消を目指し整備を行うもの。

なお、平成27年度以降についても、保育需要の増加が見込まれるが、この需要に対しては現在、国の子育て関連法案で検討されている認定こども園制度等により対応を検討していく。

(1) 今後の就学前児童数の見込み

(24年度実数) ⇒ (25年度見込) ⇒ (26年度見込) (H24-26比)
82,978人 ⇒ **83,500人程度** ⇒ **83,600人程度** (+622人)

(2) 保育所申込数の見込み

(24年度実数) (25年度見込) (26年度見込) (H24-26比)
29,626人 ⇒ **30,600人程度** ⇒ **31,400人程度** (+1,774人)
 (35.7%) (36.6%) (37.5%)

(3) 今年度整備実施後の入所可能数

(H24当初定員) (H24整備数) (H25当初定員数) (円滑化) (入所可能数)
26,264人 + 1,400人 ⇒ 27,664人 × 106.2% = 29,400人程度

(4) 必要整備数

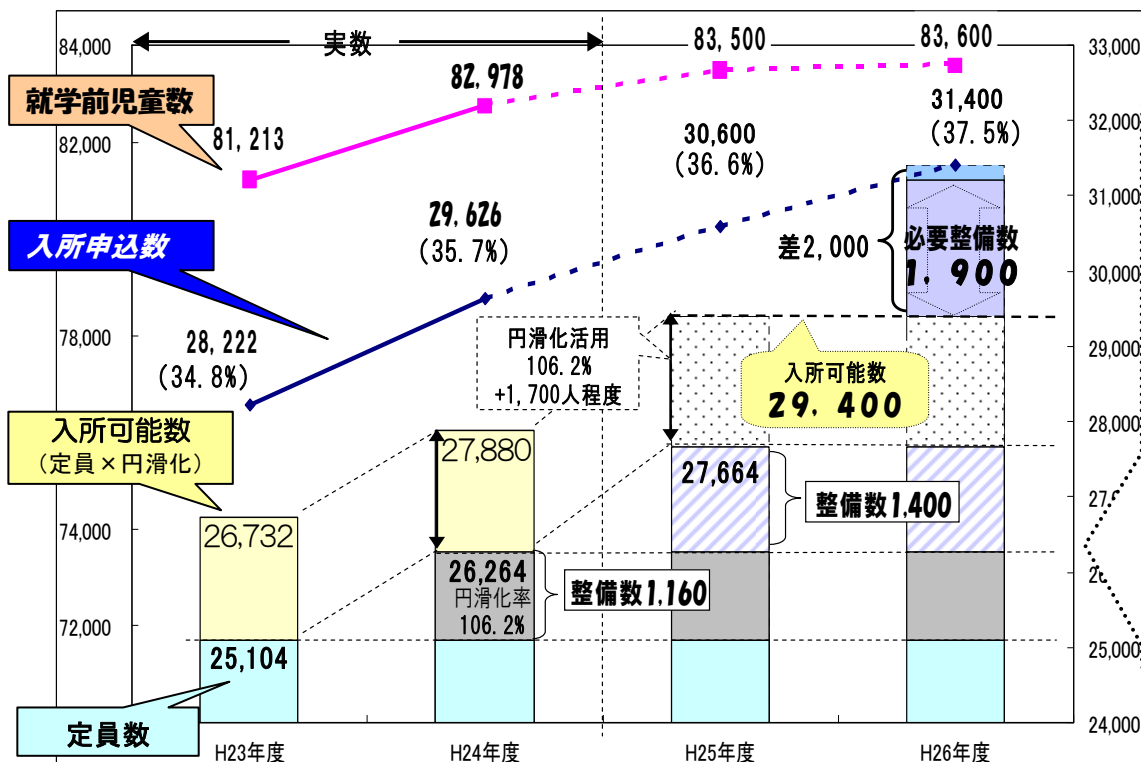
◆平成26年度までの必要整備数◆ **1,900人分**

(26年度申し込み数) (入所可能数)
31,400人 - 29,400人 = 2,000人
 必要整備数 = 2,000人分 ÷ 円滑化 106.2% ≒ 1,900人分

(5) 必要事業費

歳出	7,827百万円	
歳入	6,979百万円	(※安心こども基金 1/12 活用、土地取得費起債含む)
NET	848百万円	(※中央保育園移転改築事業土地取得費含む)

【必要整備数】



H27 以降
 ◆就学前児童数は増加(H27がピーク)
 ◆保育所申し込み数も増加すると見込まれる



H27 以降の需要には、国の子育て関連法案で検討されている認定こども園制度等により対応を検討していく。

2. 整備の実施時期について

- 現在の待機児童の状況や、保育ニーズを踏まえると、出来るだけ早期に待機児童解消に向けた取り組みを行う必要がある。
- 保育所整備については建設工事など一定期間を要する。
- 安心こども基金は現在、平成25年度以降の補助スキームが未定であるが、平成24年度工事着手事業については、平成25年度まで繰り越しが可能であることを踏まえ、財政負担軽減(市負担 1/4→1/12)の観点から、同基金を最大限に活用した整備に取り組む必要がある。

以上のことから、平成25年度当初に計上する保育所整備数のうち、平成24年度中に着手可能な整備については、補正予算計上による前倒しの保育所整備を実施し、早期の待機児童解消を図る。

平成24年度補正整備数 **700人程度**

(既実施分)

(補正予算分)

(合 計)

24年度合計実施数 **1,400人 + 700人程度 = 2,100人程度**

【補正整備700人の内訳】

◆西区伊都区画整理事業地内公募 1件 100人 (市有地売却公募)

◆その他 17件 600人

【補正予算必要額】

(単位：千円)

H23繰越予算(670人)	H24当初予算(730人)	H24補正予算(700人)	合 計(2100人分)
1,824,253	1,845,543	3,424,493	7,094,289
(1,621,552)	(1,778,913)	(3,100,046)	(6,500,511)
202,701	66,630	324,447	593,778

※関連歳入の安心こども基金については、福岡県と協議済みで確保可能

【その後の必要整備数及び必要予算額】

◆整備必要数 **1,200人分**

◆必要予算額 歳 出 **4,403百万円**

歳 入 **3,879百万円** (※安心こども基金 1/12 活用の場合)

NET **524百万円**

【H24予算編成時と今回補正による整備数見直し比較】

